



東証JASDAQ上場

証券コード
6918

 **AVAL DATA CORPORATION**

A'VALue⁺

株式会社アバールデータ

1. 会社概要

2. 2020年3月期 第2四半期 業績報告・予想

[期間：2019年4月1日～2019年9月30日 / 2020年3月31日]

3. 今後の展開

2019年11月20日



私たちは、お客様に「価値（value）」を提供し「信頼」を獲得します。

株式会社アバールデータ

本社/町田事業所	東京都町田市
工場/厚木事業所	神奈川県厚木市
設立	1959年8月
資本金	23億5,409万円
従業員	182名 (2019年4月1日 現在)
ISO9001認証取得 (1995年)	／ ISO1401認証取得 (2001年)
土地面積	6,426m ² (町田 1,977m ² / 厚木 4,449m ²)
延床面積	6,934m ² (町田 2,957m ² / 厚木 3,977m ²)



本社/町田事業所



工場/厚木事業所

1959(昭和34年)		応用電子研究所を母体に東洋通信工業株式会社（東京・渋谷区）を設立
1979(昭和54年)		初の自社製品ポータブルタイプのPROMプログラマ「Pecker」を開発・発表
1989(平成 元年)		社名を「株式会社アバールデータ」に変更
1991(平成 3年)		現 東証JASDAQへ株式公開
2002(平成14年)		光を使った高速通信モジュールの開発、販売開始
2011(平成23年)		カメラ高速通信規格CoaXPress製品開発、販売開始
2013(平成25年)		「医療機器製造業許可：一般」の許可取得
		イーソル株式会社と超高速データ処理エンジン&関連ソリューション開発で協業開始
2014(平成26年)		(株)フィックスターズと業務資本提携
		シーシーエス株式会社と「卓上型高速・高分解能カラー3Dスキャナー」共同開発
2015(平成27年)		近赤外線カメラ開発、販売開始
2016(平成28年)		東京エレクトロンデバイス(株)との業務資本提携
2017(平成29年)		アバール長崎の株式の一部を東京エレクトロンデバイス（株）に譲渡
2017(平成29年)		(株)Phoxterとの業務資本提携
		(株)エイ・オー・テクノロジーズとの業務資本提携
2018(平成30年)		TS corporation(韓国) と合併会社「AVAL GLOBAL Co.,Ltd」を設立

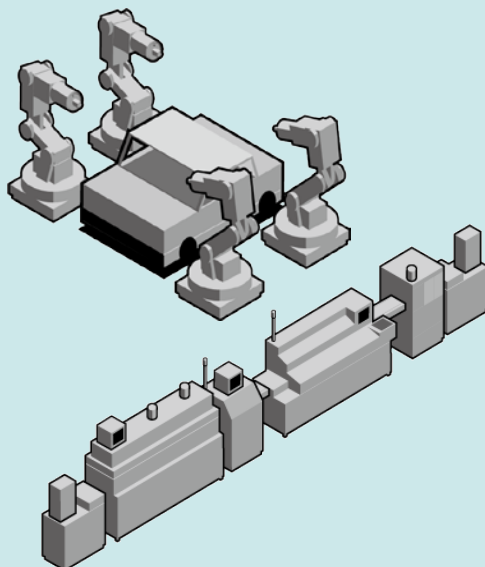
アバールデータは
工場などで使われる装置へ**組込む**
モジュール（部品）を提供しています。

アバールデータ製品



高信頼/長期供給設計

工場に設置される装置



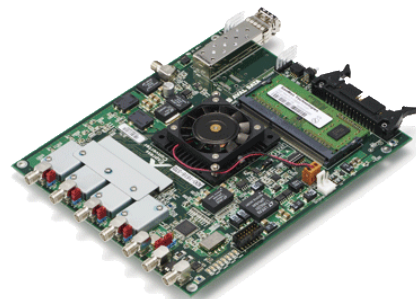
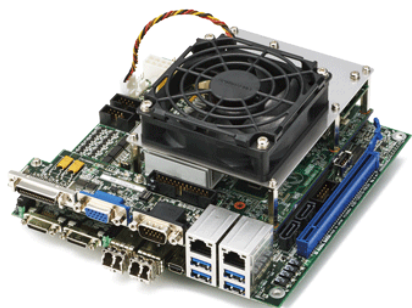
市場のさまざまな製品



日本のモノづくりの縁の下の力持ち

組み込みモジュール

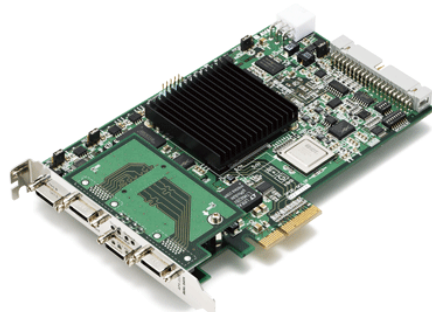
組み込み分野で業界を
リードする技術と製品



産業用ロボット、計測・通信機
で使用されます。

画像処理モジュール

国内トップクラスの実績



欠陥検知や位置決め等に
使用されます。

計測通信機器

産業用通信で最高速



機器間の高速通信に使用されます。



FPGAアクセラレータとして
データセンター等で使用されます。

「超高速」がキーワード



FPGAの高度な設計技術を保有

※FPGA (Field Programmable Gate Array)
回路構成の書き換えが可能なロジック・デバイス

光通信の**独自プロトコル**を保有

3つのノウハウを組み合わせ
高速・最適化されたシステム設計が得意

自社工場

設計と製造が一体となった総合品質

出荷後のトレーサビリティ（追跡調査可能）

少量多品種の対応



厚木工場製造ライン





証券コード
6918

 **AVAL DATA CORPORATION**

A'VALue⁺

2. 2020年3月期 第2四半期 業績報告・予想

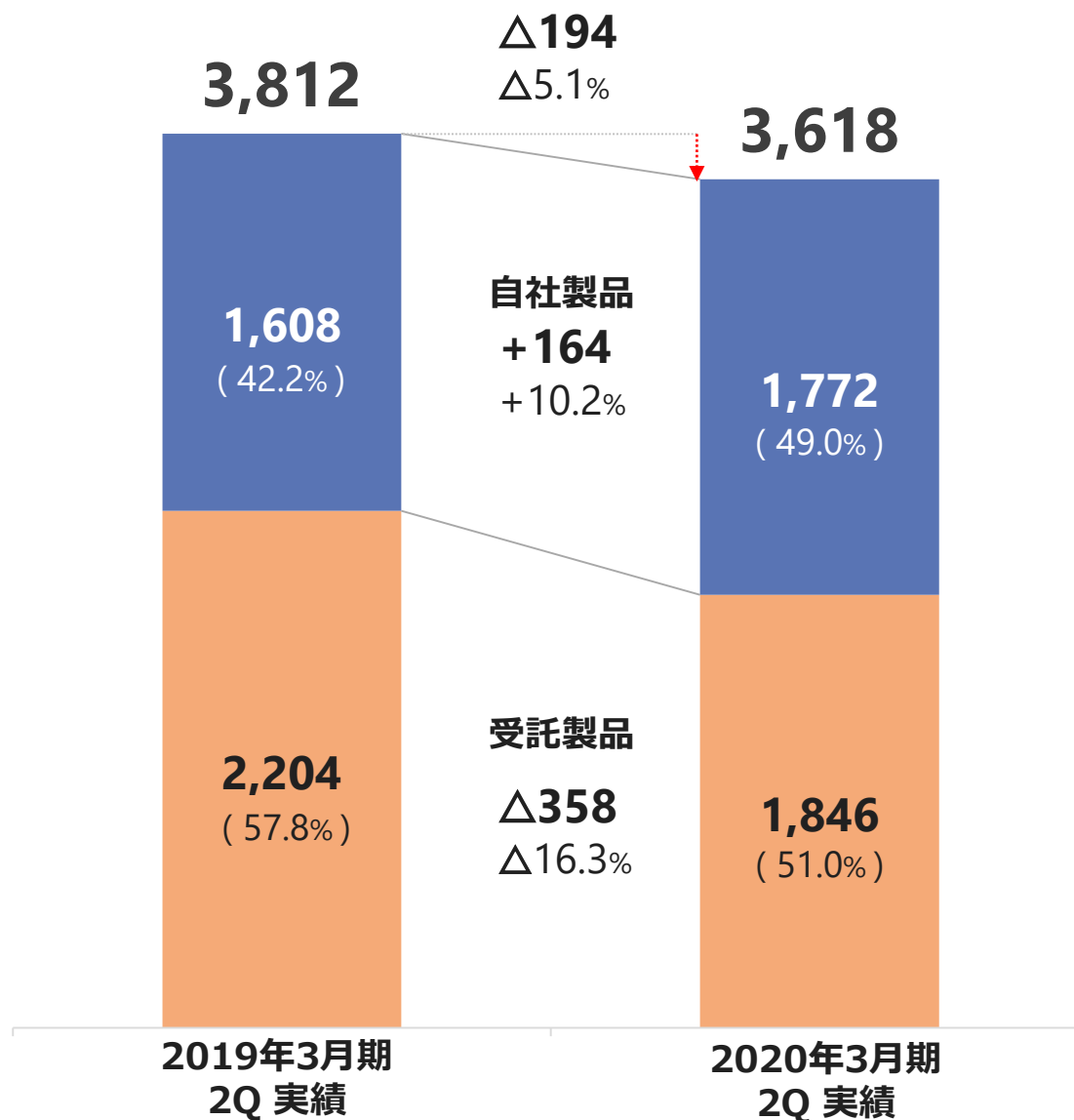
[期間：2019年4月1日～2019年9月30日／2020年3月31日]

- 半導体製造装置関連（受託製品）は、半導体メーカーの投資抑制のため、前期比売上20.3%減少。
- 一方、自社製品の超高速シリアル通信モジュール（GiGA Channel）の受注が好調。
- 受託製品は減少となったが、自社製品が貢献。（売上は前期比5%の減少）

セグメント	品目	第2四半期 実績		通期 予想	
		売上	前年同期 増減率	売上	前年同期 増減率
自社製品	組込みモジュール	218	+29.3%	600	+40.3%
	画像処理モジュール	700	△9.3%	1,550	△0.3%
	計測通信機器	766	+39.6%	1,100	△1.0%
	自社製品関連商品	88	△26.0%	300	+31.3%
	小計	1,722	+10.2%	3,550	+6.9%
※1	セグメント営業利益	641	+13.2%	-	
受託製品	半導体製造装置関連	1,390	△20.3%	3,050	△9.2%
	産業用制御機器	354	+26.6%	800	+22.3%
	計測機器	102	△43.5%	400	+10.0%
	小計	1,846	△16.3%	4,250	△2.9%
	※1	セグメント営業利益	253	△40.4%	-
	売上合計	3,618	△5.1%	7,800	+1.3%
	営業利益	667	△12.4%	1,550	+0.4%
	経常利益	700	△11.9%	1,600	+0.3%
	当期純利益	504	△11.0%	1,110	+1.7%

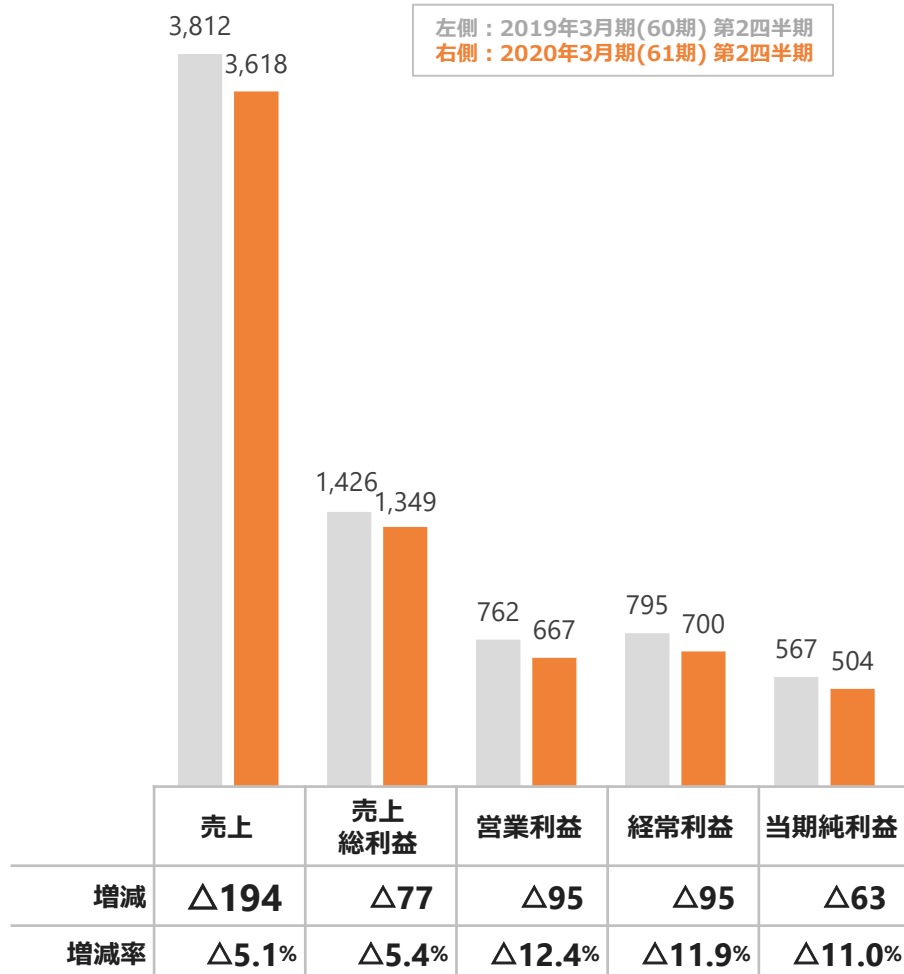
※1 セグメント営業利益合計894百万円と営業利益667百万円との差額227百万円はセグメントに属さない全社費用(一般管理費)

グラフ内の()は売上の構成比

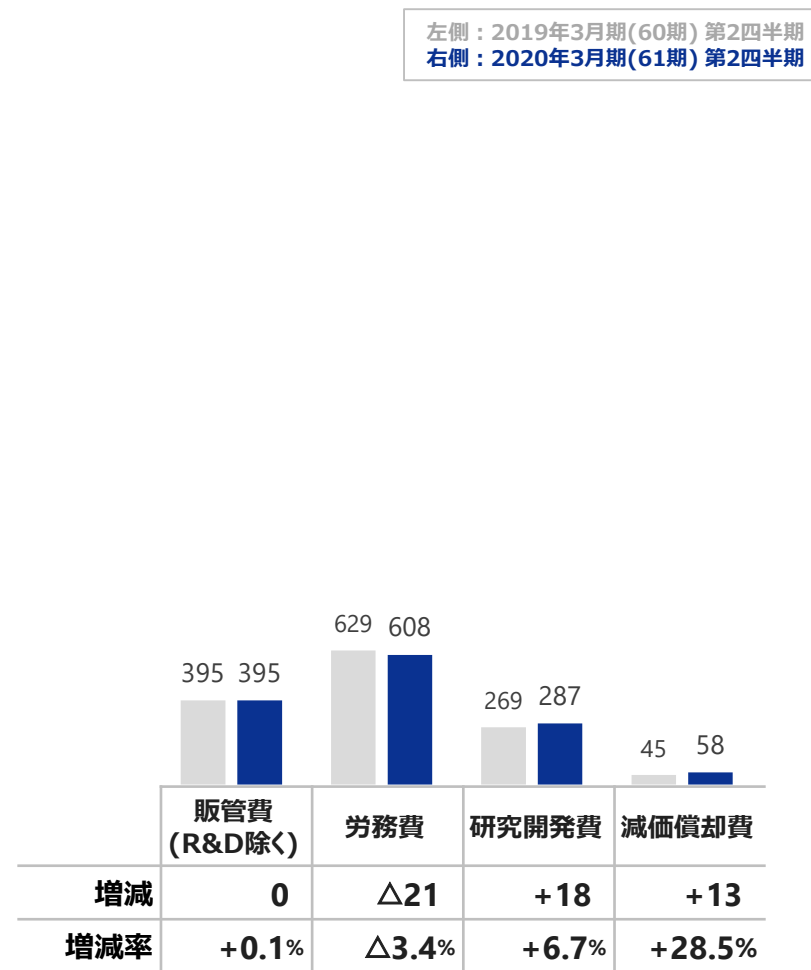


前年対比

売上・利益



経費



自社製品

※（）内の数値は
品目毎の進捗率

組込みモジュール

FA全般及び医療機器関連における新規受注は堅調に推移しており、売上高は増加。

➡ 売上高 218百万円（前年同期比 +49百万円 +29.3%）

画像処理モジュール

各種検査装置における積極的な新製品開発の推進に加え、検査工程の自動化ニーズ高まりから高水準で推移するも、顧客需要の横ばい傾向により、売上高は減少。

➡ 売上高 700百万円（前年同期比 △71百万円 △9.3%）

計測通信機器

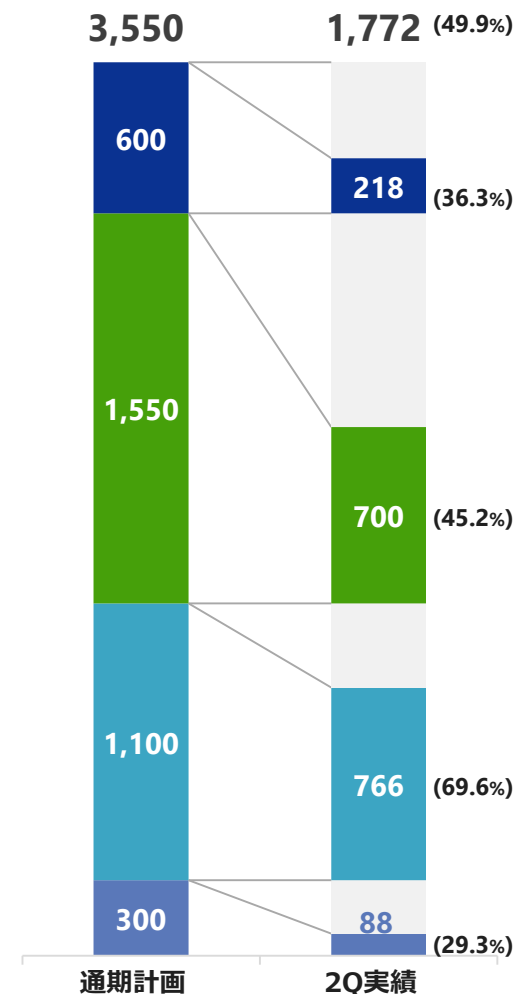
超高速シリアル通信モジュール「GiGA CHANNEL」は、新規検査装置向けの受注が順調に進んだため、売上高は大幅に増加。

➡ 売上高 766百万円（前年同期比 +218百万円 +39.6%）

商品（自社製品関連）

自社製品全般が堅調に推移するも、売上高は減少。

➡ 売上高 88百万円（前年同期比 △32百万円 △26.0%）



受託製品

※（）内の数値は
品目毎の進捗率

● 半導体製造装置関連分野

大手半導体メーカーの3D-NAND向け設備投資が調整局面にあり、新規設備投資の後倒しの影響のため、売上高は減少。

➡ 売上高 1,390百万円（前年同期比 △355百万円 △20.3%）

● 産業用制御機器分野

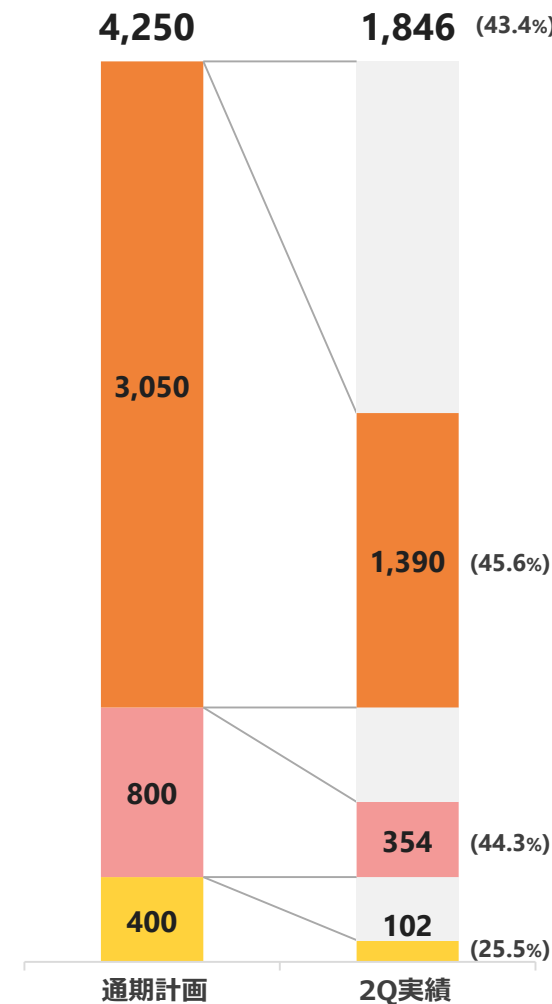
各種の産業用検査装置の新規展開が順調に進んだため、売上高は増加。

➡ 売上高 354百万円（前年同期比 +74百万円 +26.6%）

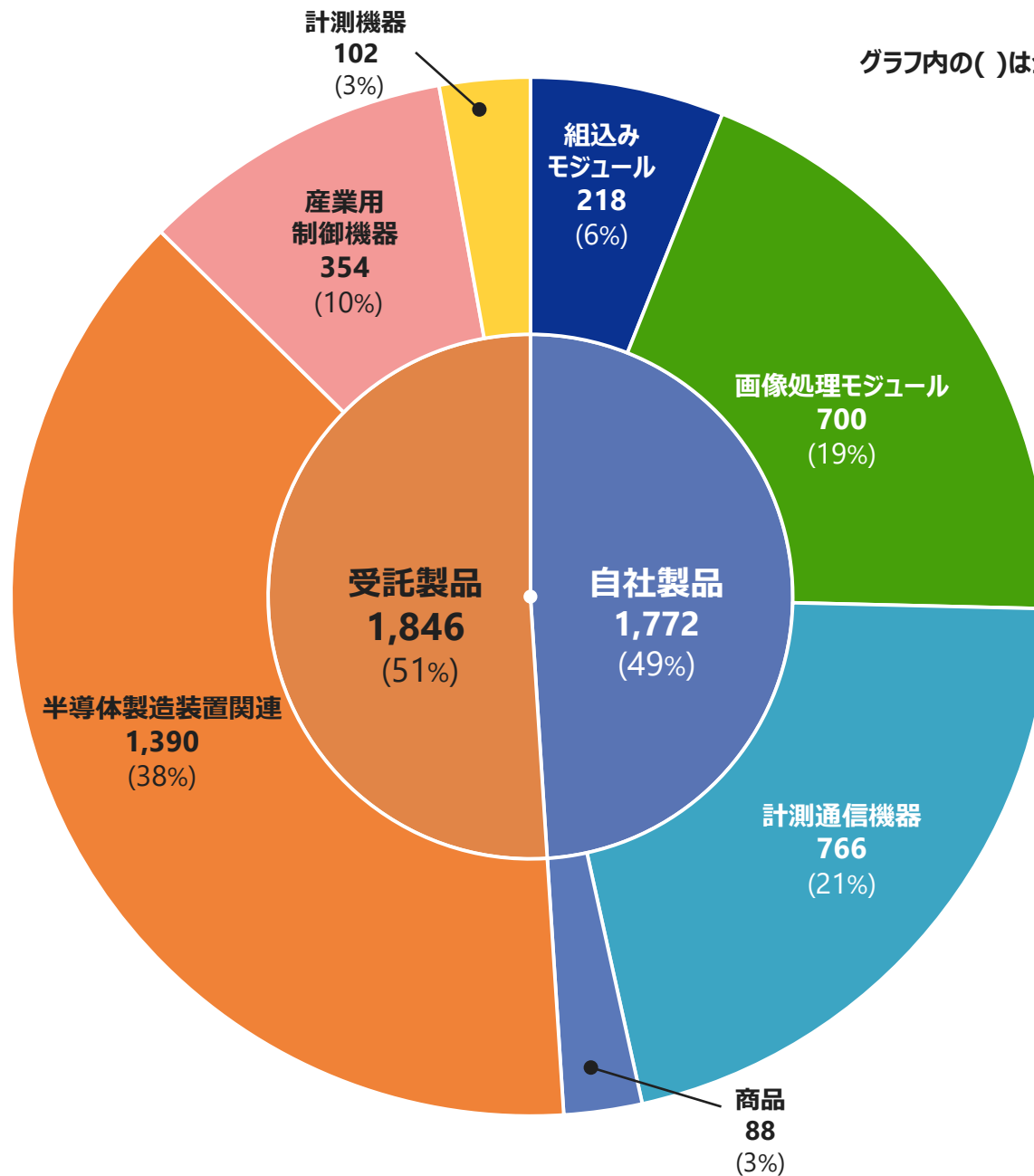
● 計測機器分野

各種計測機器の需要は回復傾向にあるものの、売上高は減少。

➡ 売上高 102百万円（前年同期比 △78百万円 △43.5%）

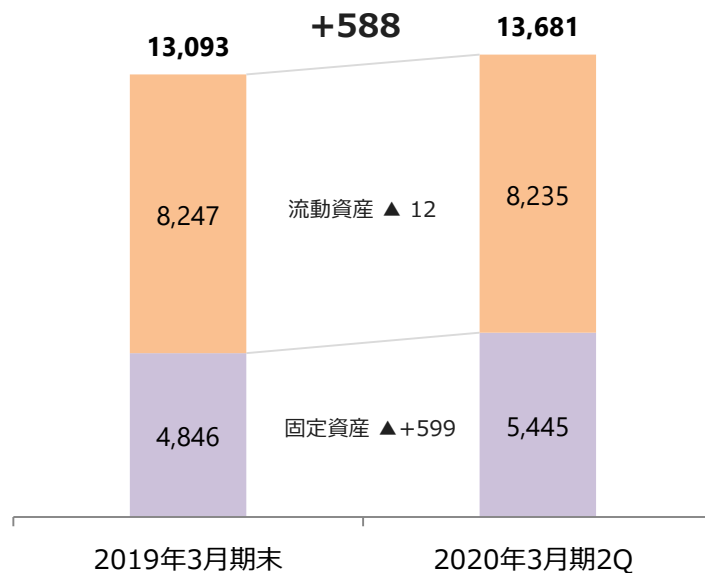


グラフ内の()は全体売上に対する構成比

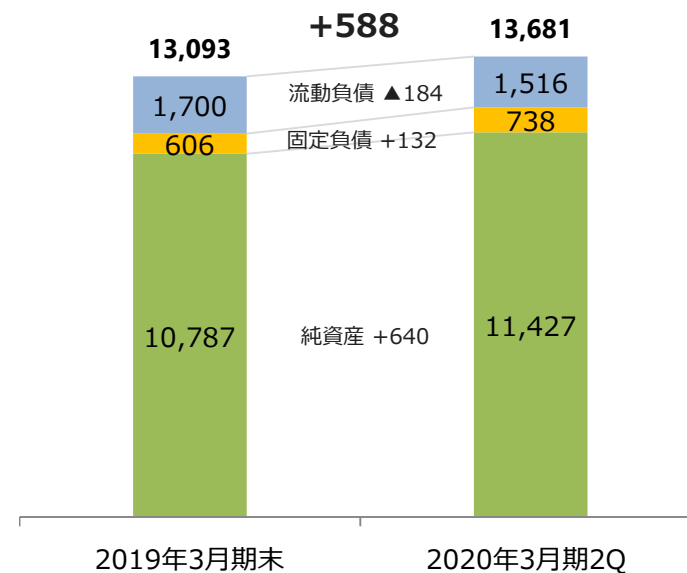


➤ 自己資本比率 83.5 % (1.1 ポイントアップ)

資産の部



負債及び純資産の部

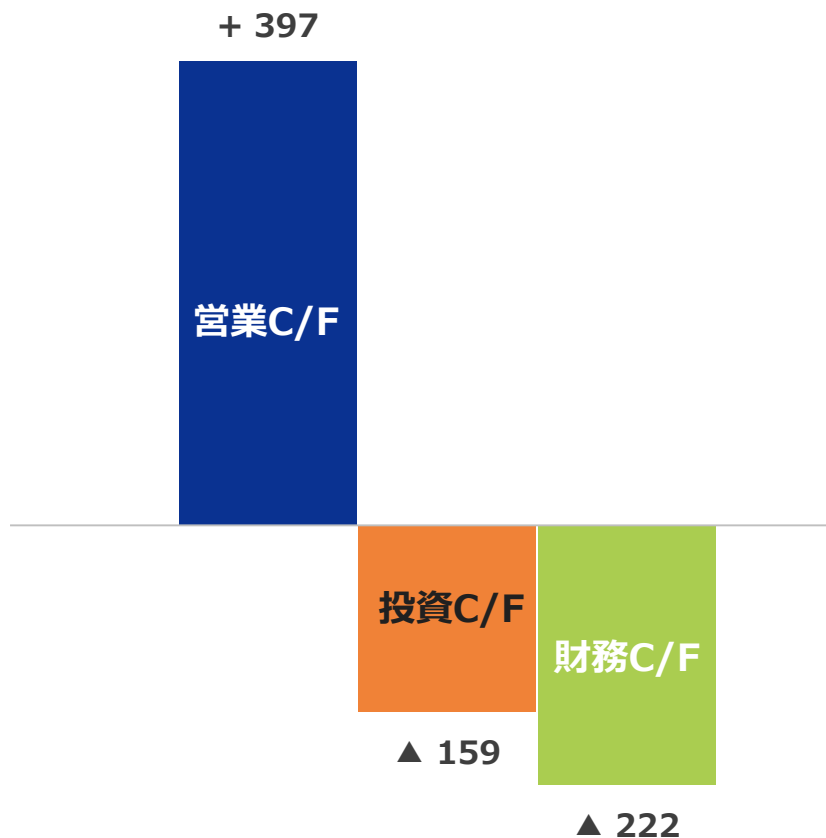


主な増減

流動資産	▲12
現金・預金	+13
受取手形・売掛金・電子債権	▲7
棚卸資産	▲26
固定資産	+599
投資有価証券	+476
有形固定資産(機械装置)	+131

主な増減

流動負債	▲184
未払法人税等	+63
支払手形・買掛金	▲205
固定負債	+132
繰延税金負債	+145
長期借入金	▲12
純資産	+640



主なキャッシュフロー項目

営業活動によるC/F +397

税引前四半期純利益	+ 694
減価償却費	+ 58
仕入債権の減少	▲ 203
棚卸資産の減少	25
法人税等の支払い	▲ 130

投資活動によるC/F ▲ 159

有形固定資産の取得	▲ 157
無形固定資産の取得	▲ 3

フリーC/F + 238

財務活動によるC/F ▲ 222

E-Ship借入金の返済	▲ 12
E-Ship自己株式の売却	+ 11
当社株式配当金支払い	▲ 221



証券コード
6918

AVAL DATA CORPORATION

A'VALue+

3. 今後の展開

SaaS

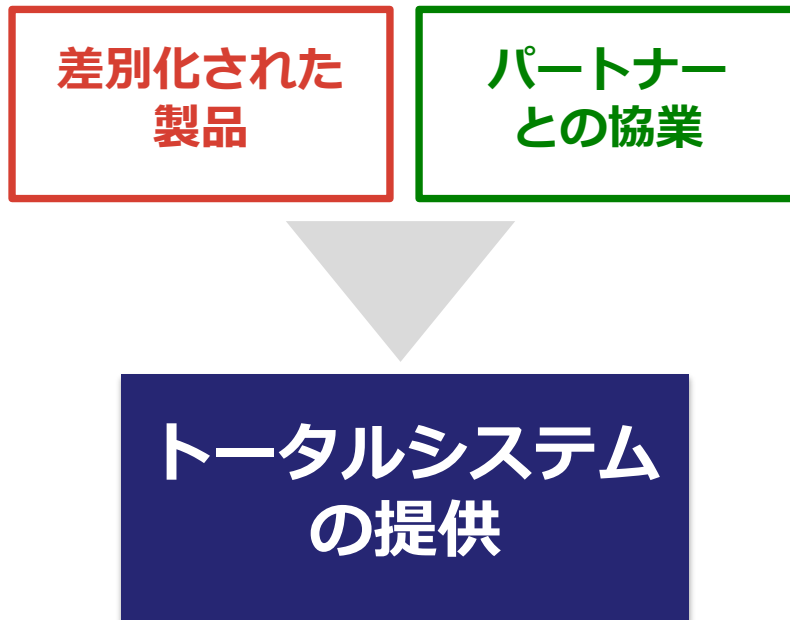
simple and speed

すべてにおいてシンプルに そして 迅速に

SaaS

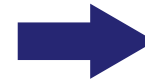
simple and speed

すべてにおいてシンプルに そして 迅速に

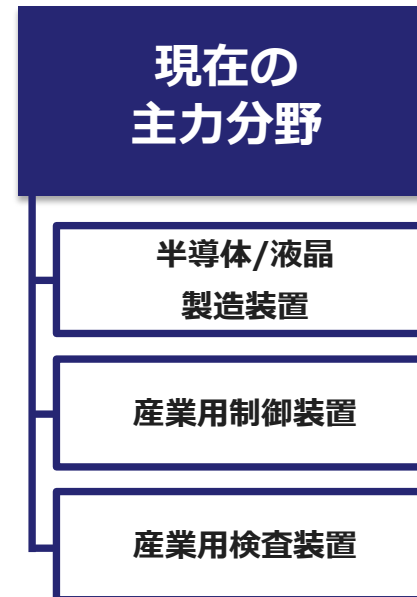


新分野への挑戦

主力分野



65% → 55%

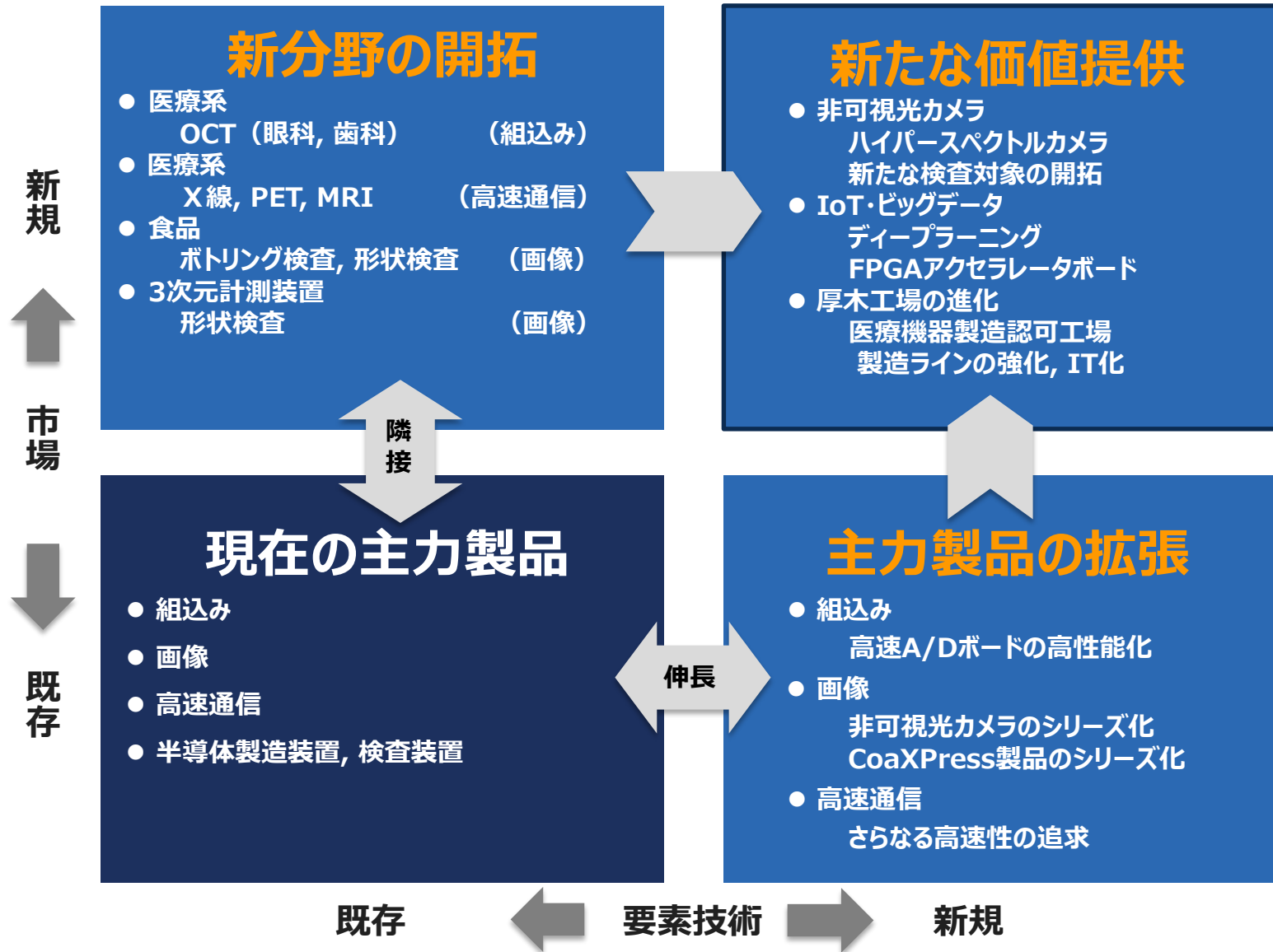


新しい分野



35% → 45%



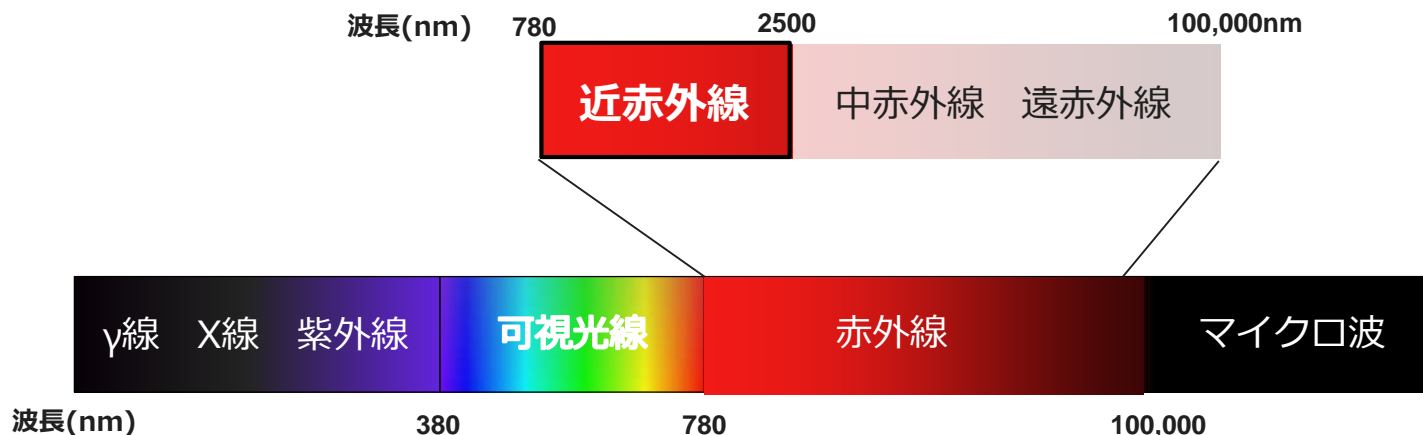


近赤外線の特徴

見えないものを、見ることができる

- ・ 一般的なカメラではとらえることのできない光
- ・ 被写体の成分の違いにより見え方が変わる

➡ **新たな検査環境の提供**



非可視光カメラの用途

可視では確認できない評価・検査

- 異物混入検出
- 農作物の痛み具合の選別
- パッケージの不具合検査
- 半導体（シリコンウェハやチップ）検査
- その他



カラーカメラ



モノクロカメラ

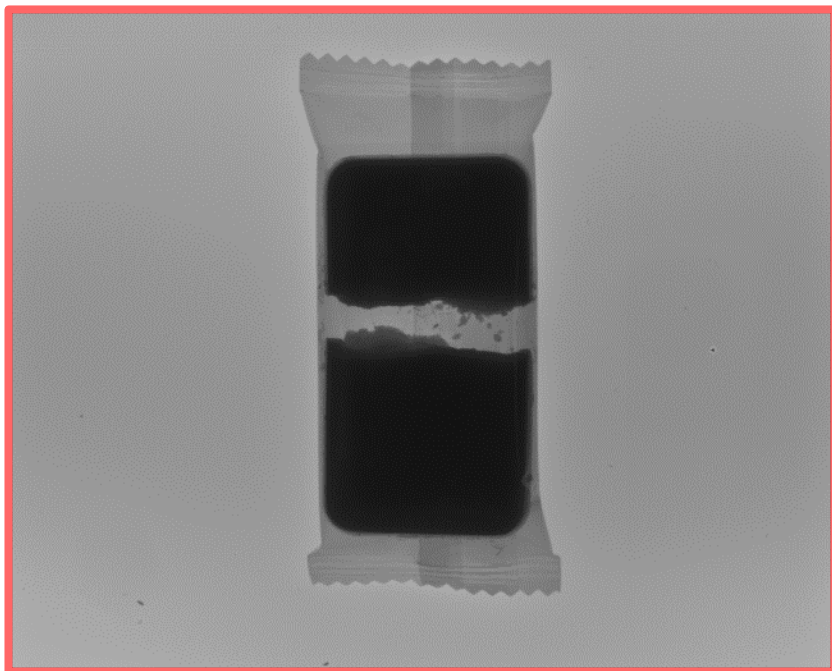


近赤外線カメラ

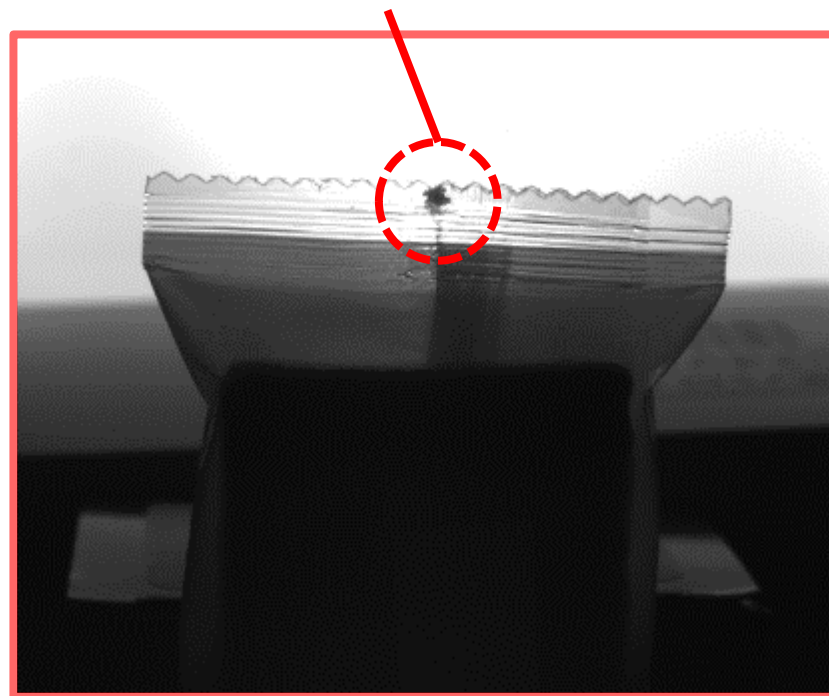
サンプル画像：食品包装

パッケージ内部破損や噛み込み

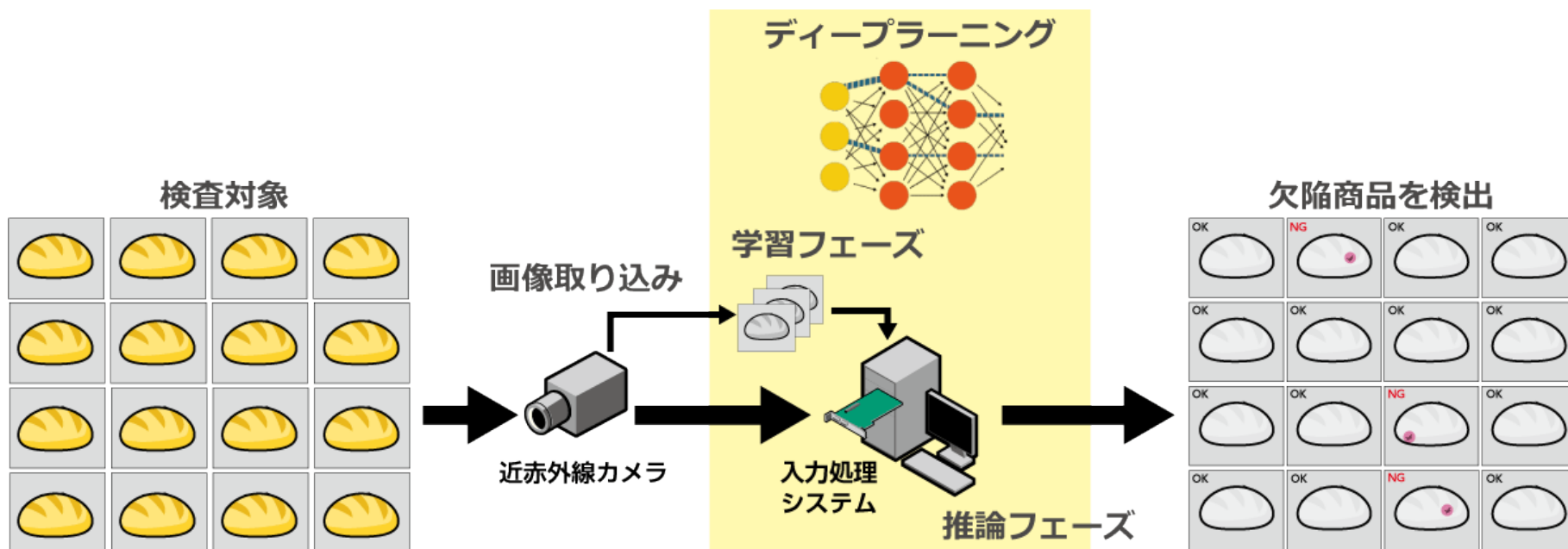
内部破損



噛み込み



近赤外線波長を使うことで、可視では実現できなかった特異点を画像化、さらに**ディープラーニング**による自動検査環境を構築することができます。



AI・ディープラーニングの活用

ディープラーニングを使った自動検査



近赤外線をメインとしたAIテストルームを開設

東京・町田本社内に、近赤外線カメラおよびAI評価環境を設置しAI(ディープラーニング)を活用するためのテストルームを開設

2017年7月
設備増強製造ライン

2019年5月
設備強化製造ライン

既存ライン



新たな飛躍

成長事業の確立（新分野への挑戦）

非可視光カメラ・医療・IoT・ビッグデータ

体質強化（スリムな企業体質）

少数精鋭・協業パートナーとの連携強化

生産性の拡大（微細化、多品種）

製造ラインの強化, IT化

売上

90億円

経常
利益率

18.0%
以上

ROE

8%
以上

配当
性向

35%

利益還元に関する考え方

- 安定的な配当にも考慮
- 配当性向35%を基本

配当の実施状況

年度	2016年3月期 実績	2017年3月期 実績	2018年3月期 実績	2019年3月期 実績	2020年3月期 予想
配当(円)	25	39	58 ^{※2}	64 ^{※3}	64 ^{※4}
配当性向 ^{※1}	36.5%	34.2%	53.6%	35.7%	35.2%

※1 2018年3月期までは、連結配当性向です。

※2 内訳:中間配当21円及び創業60周年記念配当6円を含む期末配当37円

※3 内訳:中間配当28円及び期末配当36円

※4 内訳:中間配当28円(実績)及び期末配当36円 (予想)

本資料に掲載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、確信等は、本資料発表日現時点において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に関わる仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって予測数値とは異なる可能性があるため、本資料のみに全面的に依拠することは控えていただきますようお願い申し上げます。

また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われますようお願い申し上げます。

ありがとうございました。

www.avaldata.co.jp

 **AVAL DATA CORPORATION**